

— 港のドラマ —

喜劇王チャップリン神戸上陸

昭和7年、映画「街の灯」を完成したチャップリンは、欧州、パリ島を経て、同年5月14日欧州航路の照国丸で神戸へ着き、陸路上京した。周囲に旅具検査のため乗船した税関職員姿も見える。



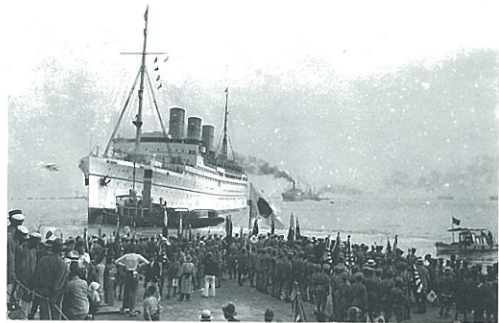
別れ (昭和初期)

港はドラマの舞台である。さまざまな人間模様を展開されていく。



移民船の船出

神戸からのブラジル移住は、明治41年4月笠戸丸に始まり、昭和46年5月ぶらじる丸で終った。



エンプレス・オブ・カナダ (昭和初期)

白色の船体にオレンジ色の二本煙突をつけた豪華で優雅な姿は太平洋の女王といわれ、人々の目を惹きました。軍閥係者の渡航が在郷軍人が見送っている。